



伊勢伊高郡
 右 ふくちやま
 南無阿弥陀佛 千月内三百日廻向
 左 志由礼ミチ
 坂内南礼
 元禄十五年十月十八日
 (註、元禄十五年—一七〇二年)

「南礼」とは人の名前であろう。いずれ修行僧かこれに類した人と考えられる。塔は玄武岩の自然石を利用したもので、塔高百cm、幅四十四cmを測る。

なお、名号の下部には蓮弁が薬研(やげん)彫り(文字の凹みがV字になっている彫り方)に陰刻(文字等の形が白く出るように、くぼませて彫ること)されている。

この塔に限らずこうした名号塔や石仏などには、その主尊の下部に蓮弁(れんべん：ハスの花卉)を陰刻、あるいは陽刻または線刻によって表出することが多い。

これは仏像が蓮弁の上に乗った姿であるのと同じ思想によるもので、蓮弁の上に主尊(ぬしのみこと)を戴いた姿をあらわしたものである。

⑫宝塔



日輪当年経一部
 南無観世音菩薩十万躰
 文化九壬申月日
 奉書札僧俗男女等
 喪主 枚田利兵衛惟政
 和田太兵衛道茂
 和田太良右衛門宗延
 願主 白誓
 (註、文化九年—一八二二年)

宝塔は本来、多宝如来と釈迦如来を本尊としたものである。

宝塔の一種に多宝塔もあるが造立の主旨としては同じである。

夜久野地方には、いわゆる一般に知られた宝塔の形式をもったものは見られないが、その変化したものは見ることができる。

茶堂にある宝塔は三段からなる方形の基礎の上に複弁の蓮華座（れんげざ）：仏像の台座の一種）を置き、その上に方柱の塔身をのせ、塔身の上に方形の笠を置き、相輪（五重の塔等の最上部にある、金属製の飾り）を立てたものである。

塔高は約四mである。ただし、五十cmばかりの土壇の上に建てられているため、これらを含めると一見したところ総高約四・五mの大型のものと見える。思うにこの宝塔は、「観世音菩薩」十万体および日輪当午経一部を埋納したものである。奉書礼僧俗男女とあるように、近在の僧侶ならびに俗人男女を問わず、多くの人たちが観世音菩薩を念じつつ、これを奉書（ほうしょ）：コウゾの繊維で作った厚手で上等な和紙）したものであろう。その数は実に十万体に達したことを示している。

⑬ 鐘楼跡



境内中央部にあった鐘楼の鐘は、戦時体制下の金属回収により強制供出となる。

今は、春のお大師さん（四月二十一日）におこなわれる「護摩祈祷」の場所として利用されている。祈祷の様子は、「お大師さん」の項を参照されたい。

⑭夜久野八十八ヶ所の石仏(一番・二番・七十番・七十一番)

夜久野八十八ヶ所は、夜久野茶堂を中心として夜久野ヶ原一帯に設けられたもので、四国八十八ヶ所大師霊場を移したものである。

夜久野八十八ヶ所は、この茶堂(大師堂)境内にその一番がある。八十八ヶ所巡拝はここを出発して全コースおよそ三時間半を要する。

夜久野八十八ヶ所の創設は、文化十三年(一八一六)にてそもそもの始まりとし、翌文化十四年にその完成をみたものである。この弘法大師像は、第一番の観音像に並べて安置されているもので、その台座には下記の銘文が刻まれている



日置村中島長右エ門
天久者郷善之土而産
業之餘間探弓並蒞奥
百得甲点山之御神秘矣
間為人拂災害是不得
止所致也所其札幣
者収而在干櫃中敢不
私用篤平日鬱冠乎如
丘癸用其斲受之刹例
干空海大師八十八箇
霊場於曠原六里之間
欲草創其場既第一
尊剗於石流干不朽為
先区助冥旦廻向干
法界其刹豈有際涯那
願見生隨喜得同志
之人畢其事因而記焉
維峯文十三龍次
丙子暮春二十一萱
陽徳山 東源寺現
堅道桓哉 謹記

